

会社設立50周年

〈創業90周年〉

㊦ 福島県南土建工業株式会社

〒961 福島県白河市字道場小路47番地
TEL 0248-22-2166(代) FAX 0248-23-4256



南湖公園の朝日

㊦ 福島県南土建工業株式会社

平成6年6月14日

フク シマ ケン ナン ド ケン コウ ギョウ カブ シキ カイ シャ
福島県南土建工業株式会社

会 社 名 福島県南土建工業株式会社
 所 在 地 福島県白河市道場小路47番地 (〒961)
 事 務 所 白河市会津町93番地
 ☎ 白河 (0248) - 22-2166
 FAX 白河 (0248) - 23-4256
 機 材 課 ☎ 白河 (0248) - 23-3204
 西郷出張所 西白河郡西郷村字前山西53番地
 ☎ 白河 (0248) - 22-8600
 FAX 白河 (0248) - 27-3916
 資 本 金 48,000,000円
 設 立 創 業 明治36年7月15日 (小野組)
 会社設立 昭和19年6月14日
 許可番号 福島県知事許可 (特-4) 第4039号
 業務内容 土木工事業、舗装工事業、建築工事業 他
 取引銀行 東邦銀行白河支店 足利銀行白河支店
 白河信用金庫 常陽銀行白河支店
 役 員 代表取締役 小野利廣 取締役 小野公一郎
 取締役会長 小野淳文 取締役 坂内國雄
 取締役相談役 小野フク子 監査役 渡辺 薫
 常務取締役 清水善治 監査役 斉藤郁夫
 常務取締役 金沢 清 顧 問 小野亀八郎
 顧 問 井上二夫



会社設立50周年 創業90周年を迎えて

代表取締役 小 野 利 廣

今年は、小野組として創業以来90年、そして福島県南土建工業(株)設立50年を迎えることとなりました。

このことは、変らない御愛顧をいただいております御得意様のおかげであります。まことにありがとうございます。また、この信用を築き上げていただいた創業以来の役職員ならびに株主各位に、改めて感謝をいたします。そして、御助力・御協力をいただきました関係各位ならびに地域の皆様に御礼を申し上げる次第です。

松樹千年朽 槿花一日歇

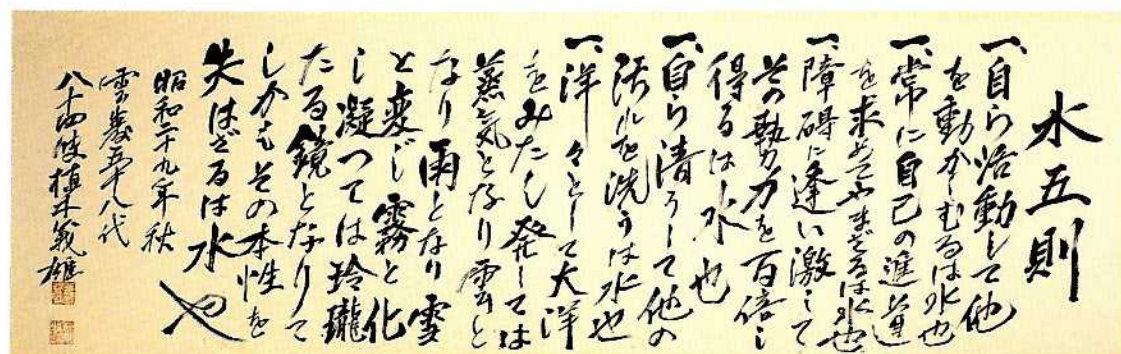
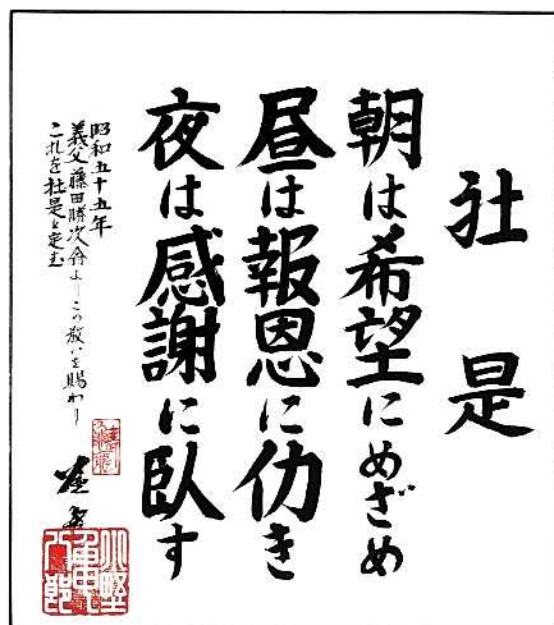
畢竟共虚空 何須誇歲月 (白楽天)

ということばもありますが、確かに人間の一生とか、人との出会いは長短によるものばかりとはいえません。しかしながら、企業はその責任を考えてみても継続が第一の要件であると思います。時代の流れ、環境の変化に対応して、その理念を生かしながら事業を行なっていく必要があります。

小野亀二郎(初代)が鉄道石工として大分県を離れ、苦労を重ねて白河に落ち着いて小野組を創業して90年。戦時中の混乱の中で、企業統制令によって福島県南土建工業(株)を設立して50年。この間における時代の変化は急激かつ大幅なものであり、会社の記録をみても危機が何回もあったようです。この危機を、「損をしたら人の倍働いて返すまでですよ。」と頑張って働いた小野亀二郎(初代)をはじめとする諸先輩の苦労と努力によって乗り越えてきたものと思います。

いま、建設業をとりまく環境にも厳しいものがありますが、私たちは創業90年会社設立50年を迎え、創業の精神に立ち、そして過去の諸先輩の努力を学ぶ契機といたし、それによって今後への道を開いていきたいと思ひます。小野亀二郎のことばのように。私たち一人一人が、平凡なことを非凡に行なっていく努力が、その根底にあると確信いたしております。

このようなことで、私共は社訓・社是にしたがつて、「従業員・株主に喜ばれ、お客様から信頼され、地域から愛される会社づくり」に、さらに一層の努力をいたす所存ですので、皆様の変わぬ御指導・御鞭達をお願い申し上げ、創業90年会社設立50年にあたつての御挨拶といたします。



《社訓》

歴代社長の略歴

*初代 小野 亀二郎^{カメ ジ ロウ}



明治4年4月15日、大分県宇佐郡津房村（現、安心院町）にて生まれる。

16才青雲の志をいだいて故郷をあとにし、石工として鉄道工事を専門にしながら白河に至る。

明治30年、建設業界の重鎮大島要蔵氏の子分亀山春吉氏の媒妁により郡山市の酒井リエと結婚、8男5女をもうける。

明治36年、小野組を創業する。

昭和12年10月13日死去。

妙徳寺総代、福島県土建業組合白河支部長など



*二代 小野 亀二郎^{カメ ジ ロウ}（利勝）



明治31年7月15日、小野亀二郎・

リエの長男として生まれる、福島県立安積中学卒。

大正6年、家業小野組に従事、緑川コウと結婚、1男2女をもうける。

昭和12年、父亀二郎の死去にあい、亀二郎を襲名。昭和19年福島県南土建工業(株)を設立。

昭和21年社会事業の功勞により皇太后陛下より御下賜品を賜わる。

昭和31年3月1日藍授褒賞受賞。

昭和41年4月3日死去、同日従五位勲四等に叙せられる。

調停委員・白河商工会議所会頭・白河地区経営者協会会長・真宗大谷派門徒評議院・福島県建設業協会会長・西郷通運(株)社長・白河市消防団長・福島県消防協会会長・日本消防協会副会長（永年勤めたPTA会長の功績により白河第二小学校の校庭に顕彰碑が建立される）



*三代 小野 亀八郎



大正10年7月23日、小野亀二郎・リ工の8男として生まれる。

官立三重高等農林学校林学科卒。

豊橋第1陸軍予備士官学校砲兵生徒隊教官。

昭和21年、福島県南土建工業(株)入社。

昭和23年2月16日、藤田フク子と結婚、1男3女をもうける。

昭和41年4月、福島県南土建工業(株)取締役社長に就任

昭和56年2月、福島県南土建工業(株)取締役会長就任

昭和56年4月、白河市長就任

昭和57年12月、福島県南土建工業(株)取締役会長辞任

調停委員・白河商工会議所副会頭・白河地区経営者協会会長・

真宗大谷派門徒評議員・白河市三道会長・福島県綜合建

設工業協同組合理事長・福島県林業協会副会長・福菱工業(株)社長

赤面山総合開発(株)社長他 数社役員

*四代 小野 利 廣



昭和24年9月23日、小野亀八郎・フク子の長男として生まれる。

福島県立白河高等学校、高崎市立高崎経済大学経済学部卒業。

昭和49年4月 福島県南土建工業(株)入社

昭和50年4月～昭和51年3月 福島県産業開発青年隊助手

昭和55年4月17日 田中恵子と結婚、3男1女をもうける。

昭和56年2月 福島県南土建工業(株)取締役社長に就任、現在に至る。

福菱工業(株)取締役

白河商工会議所常議員

力産業(株)取締役

白河地区経営者協会副会長

福島県建設業協会理事・青年部常任顧問

赤面山総合開発(株)監査役

(社)白河法人会青年部会長 他

90年のあゆみ

明治36年7月15日 初代小野亀二郎金屋町において土木建設請負業「小野組」を創業する。

大正8年1月 汽車の火の粉が原因で白河町の173戸が焼失する大火にあい、道場小路に事務所を移す。

大正12年 白河中学校(現 県立白河高等学校)を請負、翌年4月に完成する。

大正14年 国鉄郡山工機部、郡山鉄道貨物上家等の工事請負完成する。

郡山「あずま橋」建設工事を請負完成する。

(当時は郡山保線区発注の工事を請負、磐越西線・中山宿あたりまでの工事を行う。)

昭和6年 白河警察署新築工事(白河で初めての鉄筋コンクリート造建築)を請負完成する。

田町大橋架替工事(鉄筋コンクリート橋)、白河税務署(横町)新築工事を請負完成する。

昭和9年9月 白河裁判所新築工事着工、翌年4月に完成する。

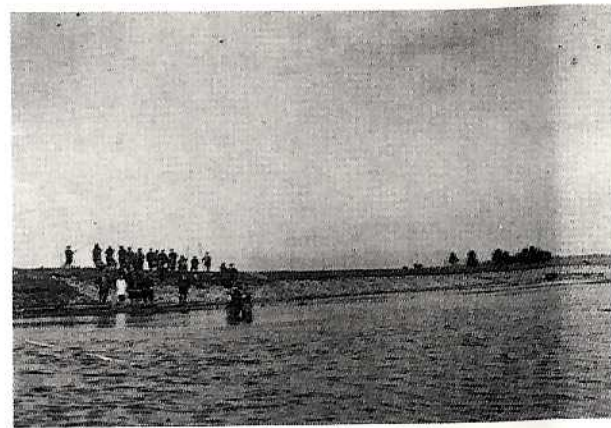
昭和12年10月13日 初代 小野亀二郎死去。

●創業時の主だった方々

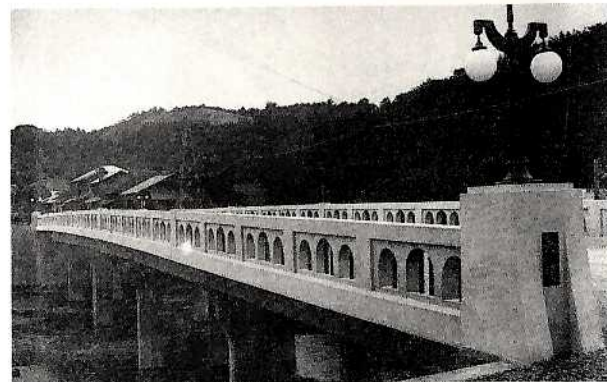
藤田房吉	兼子久蔵	斉藤金次郎	菊地貞次
岡田藤太郎	佐藤政吉	安野勇治	鈴木安兵衛
川田卯作	鈴木長吉	戸叶松次	松沢栄蔵
鈴木子之吉	岡田万治	長谷川謙治	藤井平三郎
高崎 雅	(全部故人)		



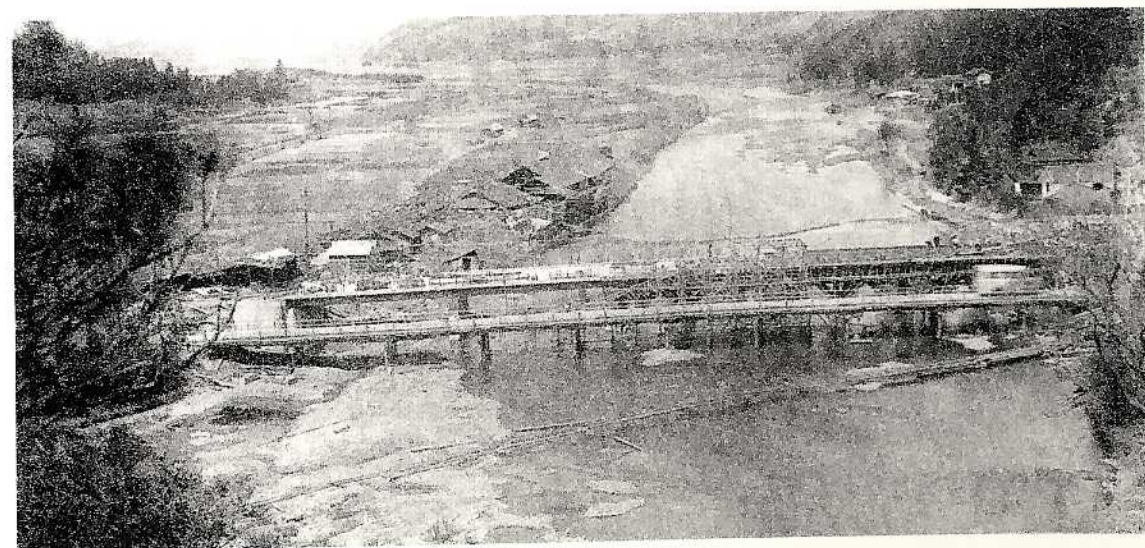
国鉄、郡山工機部



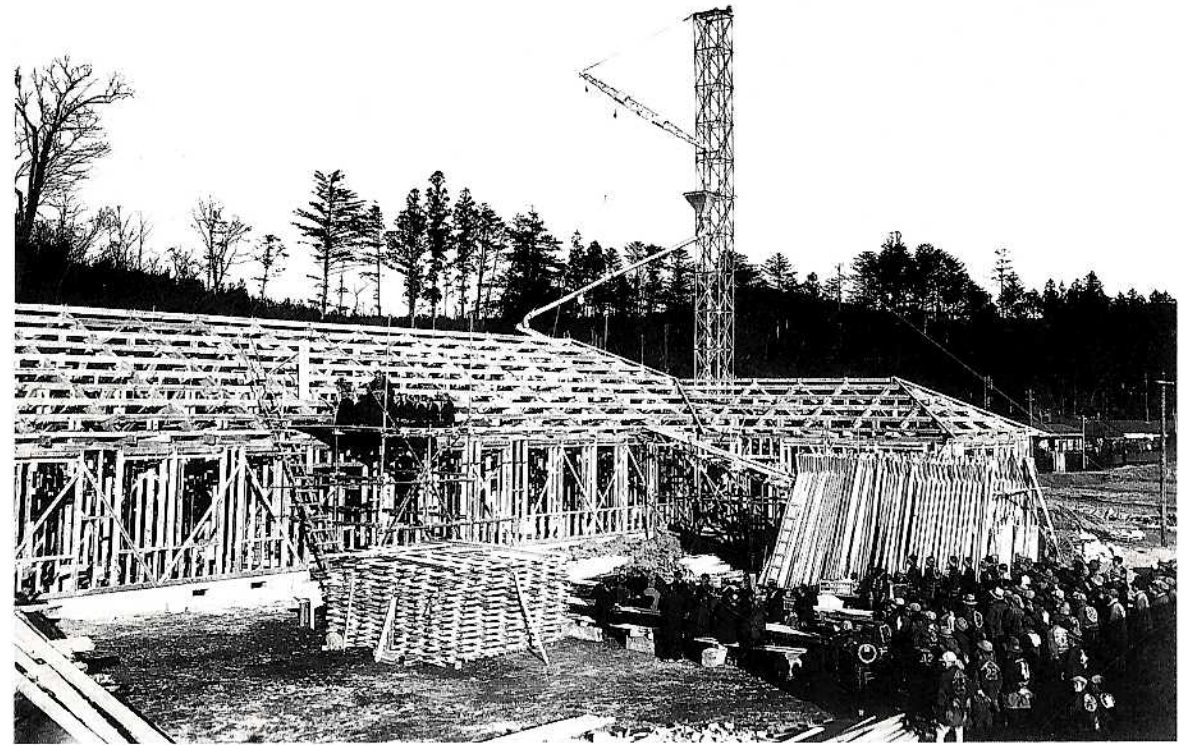
阿武隈川河川改修工事



田町大橋架替工事完成写真



田町大橋架替工事



白河裁判所 上棟式



白河裁判所 完成写真

昭和12年10月14日 二代目社長に小野亀二郎（利勝）が就任する。

昭和12年 緬羊場（国立種牡緬羊育成所）第1期工事を請負着工する。
阿武隈川河川災害復旧工事（滑津村地内）を請負完成する。

昭和13年 緬羊場 第2期工事請負着工する。

昭和14年 緬羊場 第3期工事請負着工する。

昭和15年 緬羊場全工事完成する。
阿武隈川河川災害復旧工事（白河市羅漢山地内）を請負完成する。
鈴木特殊硝子工場建設工事（白河駅前）を請負完成する。
国鉄貨物道路コンクリート舗装工事（旧丸通前）を請負完成する。

昭和16年 陸軍第2師団の命令により、白坂に騎兵部隊兵舎を工期わずか3週間で完成させる。

昭和17年 企業統制令により、東鉄工業に小野義美（現小野組社長）
仙鉄工業に松沢栄蔵を派遣する。

昭和19年4月 白河厚生病院建築工事を完成する。（県下初の組合病院）。

昭和19年6月14日 企業統制令により西白河、東白川、石川郡の建設業者を統合し、「福島県南土建工業株式会社」を設立する。代表取締役兼取締役に小野亀二郎が就任する。

昭和23年 白河商工会議所が設立される。初代会頭に小野亀二郎が就任する。

昭和24年9月21日 建設業法施行により統合した建設業者を解散し、単独にて福島県南土建工業株式会社（資本金16万円、代表取締役小野亀二郎）として再発足する。

昭和25年 白河厚生病院病棟増築工事を請負完成する。

昭和26年4月 白河パルプの創業に伴い、西郷出張所を開設する（初代所長松沢栄）。
白河市初めての2階建て市営住宅建設工事を請負完成する（アッシュ入軽量コンクリート造、骨材は石炭ガラを使用する）。

昭和27年9月 白河市街に熊が進入、社長宅をおそうが撃退する。

昭和32年 社会保険（健康保険、厚生年金）に加入し、従業員の福利厚生をはかる。

昭和32年2月 白河パルプ（現三菱製紙白河工場）の材料、製品の輸送、その他の目的で共同出資により西郷通運(株)を設立する。
初代社長に小野亀二郎が就任する。

昭和33年 白河市初めてのアスファルト舗装工事（商工会議所から、大福屋食堂まで延長80M）を請負完成する。

昭和34年 旧国道4号線（向寺～女石間）アスファルト舗装工事を請負完成する。
この頃よりアスファルト舗装工事の受注が増える。

昭和35年 東部衣料（白河市初めての誘致企業）新築工事を請負完成する。

昭和36年 従業員退職金制度を設け、従業員の福利厚生をはかる。

昭和37年 甲子林道工事を請負完成する（甲子より会津まで開通）。
金勝寺橋建設工事を請負完成する（木造橋からコンクリート橋となる）。

昭和39年5月 白河警察署の昭和町（現在地）移転新築工事を請負完成する。

昭和39年10月 社内機構を整備し、土木部門、建築部門、総務部門を設ける。

昭和40年 4 月 白二小改築第1期工事を請負完成する（蜂の巣校舎）。

昭和40年 5 月 生コン製造のため共同出資にて白河建設工業協同組合（建協生コン）を設立する。
初代理事長に小野亀八郎が就任する。

昭和41年 3 月 白河高等学校々舎改築工事（鉄筋コンクリート造3階建）を請負完成する。

昭和41年 4 月 3 日 小野亀二郎（二代目）死去。

・昭和19年 6 月14日 会社設立当時の役員および株主

代表取締役	小野亀二郎		
常務取締役	中村市太郎		
取 締 役	兼子孫治	佐川義房	秋山保
監 査 役	鈴木長吉	江口伊六	
株 主	佐藤栄吉	白坂 章	菊地常吉
	二瓶仲次	湯沢光市	渡辺栄二
	青柳藤夫	鈴木五郎	鈴木一二
	石井政市郎	佐川義広	鈴木賢次郎
	久我長吉		

・昭和24年 会社再発足当時の役員

代表取締役	小野亀二郎		
取 締 役	伊東秀廣	矢部元雄	菊地一貞
監 査 役	秋山兵蔵	井上 融	



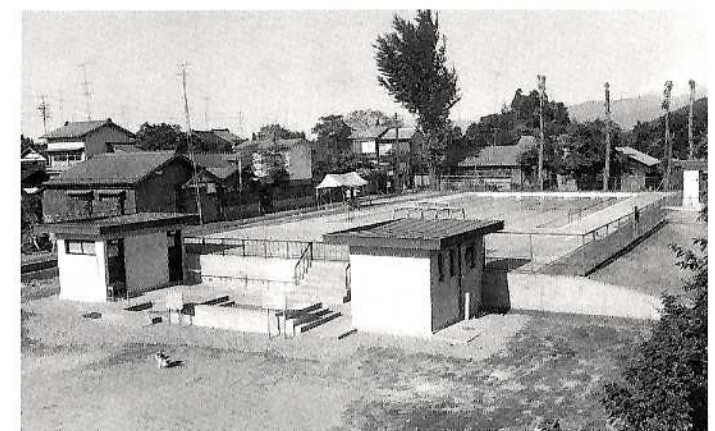
綿 羊 場（全景）



綿 羊 場



白二小校舎（全景）



白二小プール

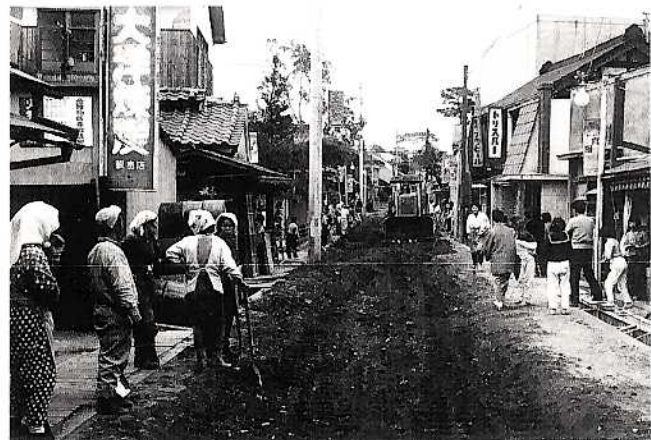
棟 札
表 1 裏 1



白河駅前コンクリート舗装



県立白河高校(全景)



アスファルト舗装工事(新蔵)



棟 札 3枚

- 昭和41年4月4日 三代目社長に小野亀八郎が就任する。
- 昭和41年4月 松沢栄(西郷出張所長)が常務取締役に就任、同時に社内に部課制度(2部、4課、1出張所)を設ける。
- 昭和41年5月 碎石製造のため、共同出資にて力産業(株)、さらにその碎石を使用しての合材製造のために力合材(有)を設立する(これが基になり、力建設共同企業体を組織し、那須甲子有料道路などの大型工事に対処した。さらに昭和53年6月、合材需要の増大により力合材(有)を発展的に解散し、力産業、三金興業、日本舗道の3者による、共同企業体白河アスコンを設立する)。
- 昭和42年3月 白二小全校舎が完成する。
- 昭和44年5月 「故小野亀二郎翁」顕彰碑が白二小に建立される。
- 昭和45年4月 白河駅前からの都市計画街路事業工事を請負着工する(白河市初めての4車線道路)。
- 昭和45年6月 佐野製作所福島工場新築工事を請負完成する(県南地方への企業進出のはしり)。
- 昭和47年6月 道場小路より会津町に事務所を移転する。
- 昭和製作所白河工場新築工事を請負完成する。
- 昭和50年7月 昭和町地下歩道工事を請負完成する。
- 正英製作所福島工場第1期工事を請負完成する。
- 昭和51年 隅戸林道新設工事を請負完成する。
- 福島ケミコン第1期工事請負完成する。
- 昭和54年 白河農工高校(現実業高校)校舎第1期工事を請負着工する。

昭和54年

国道289号線昭和大橋（立体交差）工事を請負完成し、
開通する。

三金興業、鈴木建設と白河建設共同企業体を結成し、国道
289改良工事（剣桂トンネル）を請負着工する。（この
後甲子工区トンネル6本を企業体で請負完成する）。

昭和56年2月 小野亀八郎 代表取締役 辞任。



肉の万世白河店



太陽の国管理センター



白河実業高校校舎



白河実業高校正面



福島ケミコン第1期



那須甲子有料道路



昭和大橋



住宅



広域農道



県営住宅

- 昭和56年2月 代表取締役役に小野利廣が就任する。
- 昭和57年 県営白河体育館建設工事（加地和組とのJV）を請負着工する。
- 昭和57年8月1日 西郷通運(株)が福菱工業(株)となる。
- 昭和58年 国鉄豊原白坂間181K200M附近土留擁壁新設工事を請負完成する。
- 昭和59年 信越半導体排水処理工事他を請負完成する。
矢祭町勤労者体育センター新築工事を請負完成する。
雇用促進住宅白河宿舍建設工事を請負完成する。
- 昭和60年 大信村畜産団地造成工事を請負完成する。
中央精機第1期新築工事を請負完成する。
- 昭和61年 白河道路（4号線）拡幅工事を請負完成する。
東邦銀行白河西支店新築工事を請負完成する。
- 昭和63年 公共下水道（西郷村）枝線管渠布設工事を請負完成する。
白河准看護学院新築工事を請負完成する。
厚生年金基金に加入し、従業員の福利厚生の充実をはかる。
- 平成元年 東北自動車道西郷チェーンベース工事を請負完成する。
表郷村住宅団地（白鳥団地）造成工事を請負完成する。
- 平成2年 公共下水道（西郷村）中央幹線管渠布設工事を請負完成する。
矢祭町展望台建設工事を請負完成する。
- 平成3年 国道4号線大清水交差点改良工事を請負完成する。
西郷村サービスセンター建設工事を請負完成する。
- 平成4年 興亜紙器白河工場新築工事を請負完成する。
エムテック工場新築工事を請負完成する。

平成 4 年

ムサシノ機器工場増築工事を請負完成する。

平成 5 年

白河警察署新築工事を請負完成する。

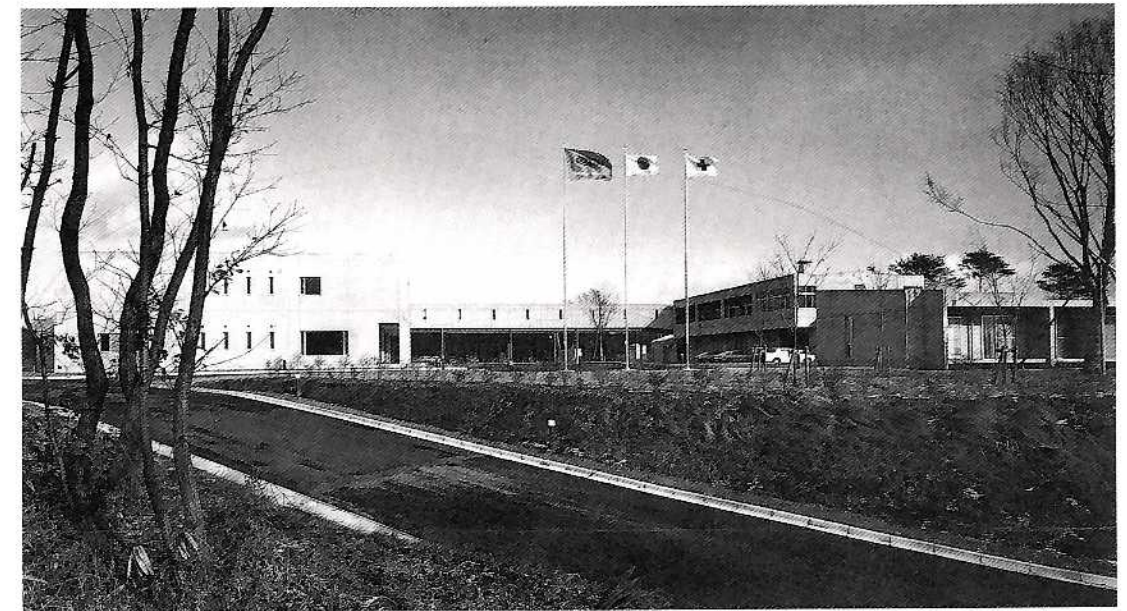
熊倉小学校（2 級防音）建築工事（安藤建設との J V）を
請負完成する。

平成 6 年

わしおストアー新築工事を請負完成する。



銀 行



工 場



社 員 寮



国道289号線（関辺地内）



産廃処理場



JR土留工事



東北自動車道 阿武隈チェーンベース



国道4号、和尚壇地下歩道



矢祭町展望台



国道4号線拡幅工事



県立しらうめ荘（JV）



県営体育館（JV）



ショッピングセンター



特殊工場（製薬）



JR白河駅（屋根及外壁工事）

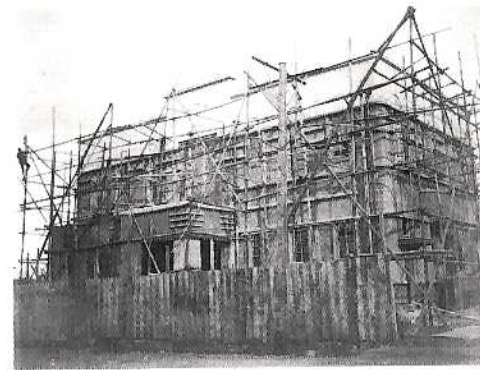


工場および厚生棟



白河警察署（郭内）昭和6年完成

白河警察署3代



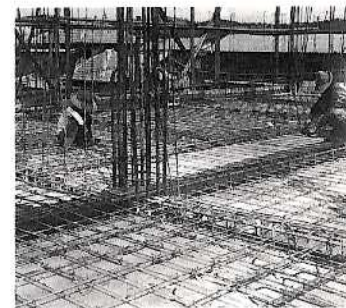
現場の状況（昭和6年）



白河警察署（昭和町）昭和39年完成



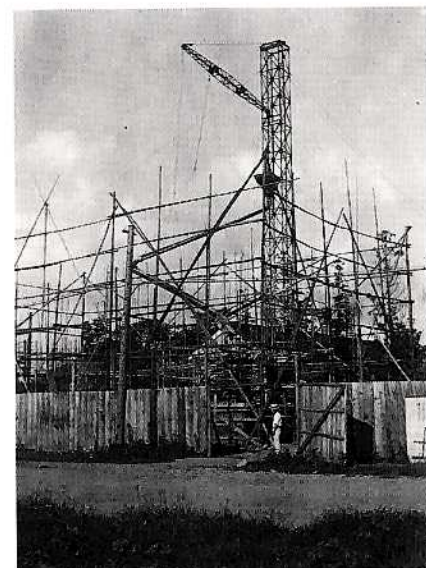
現場の状況（昭和6年）



現場の状況



白河警察署（現在）平成5年完成



現場の状況（昭和6年）

甲子のトンネル（JV）



黒石トンネル



片見トンネル



きびたきトンネル



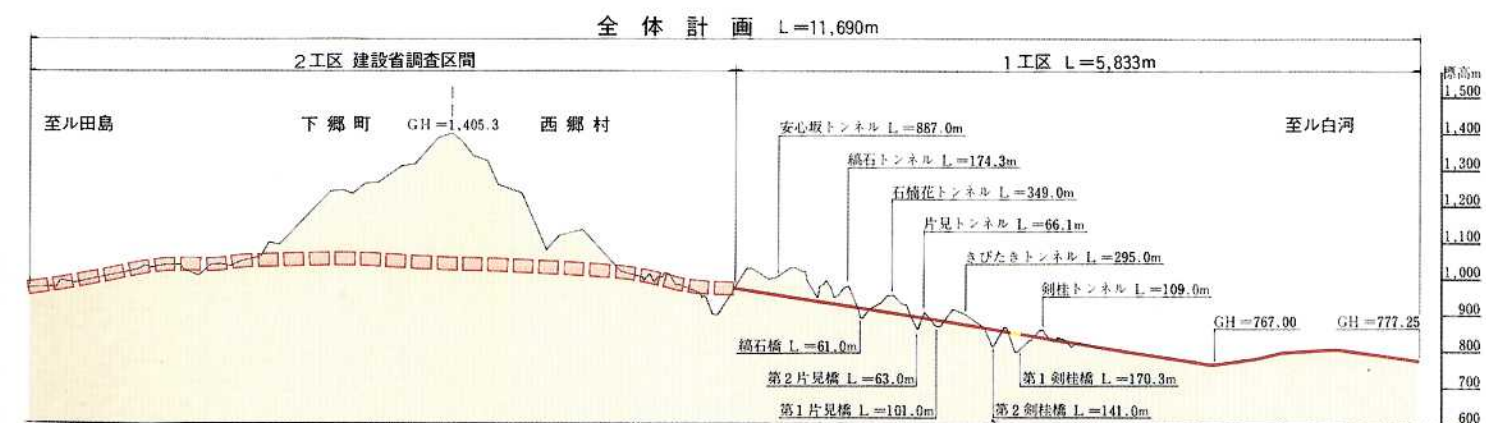
安心坂トンネル



石楠花トンネル

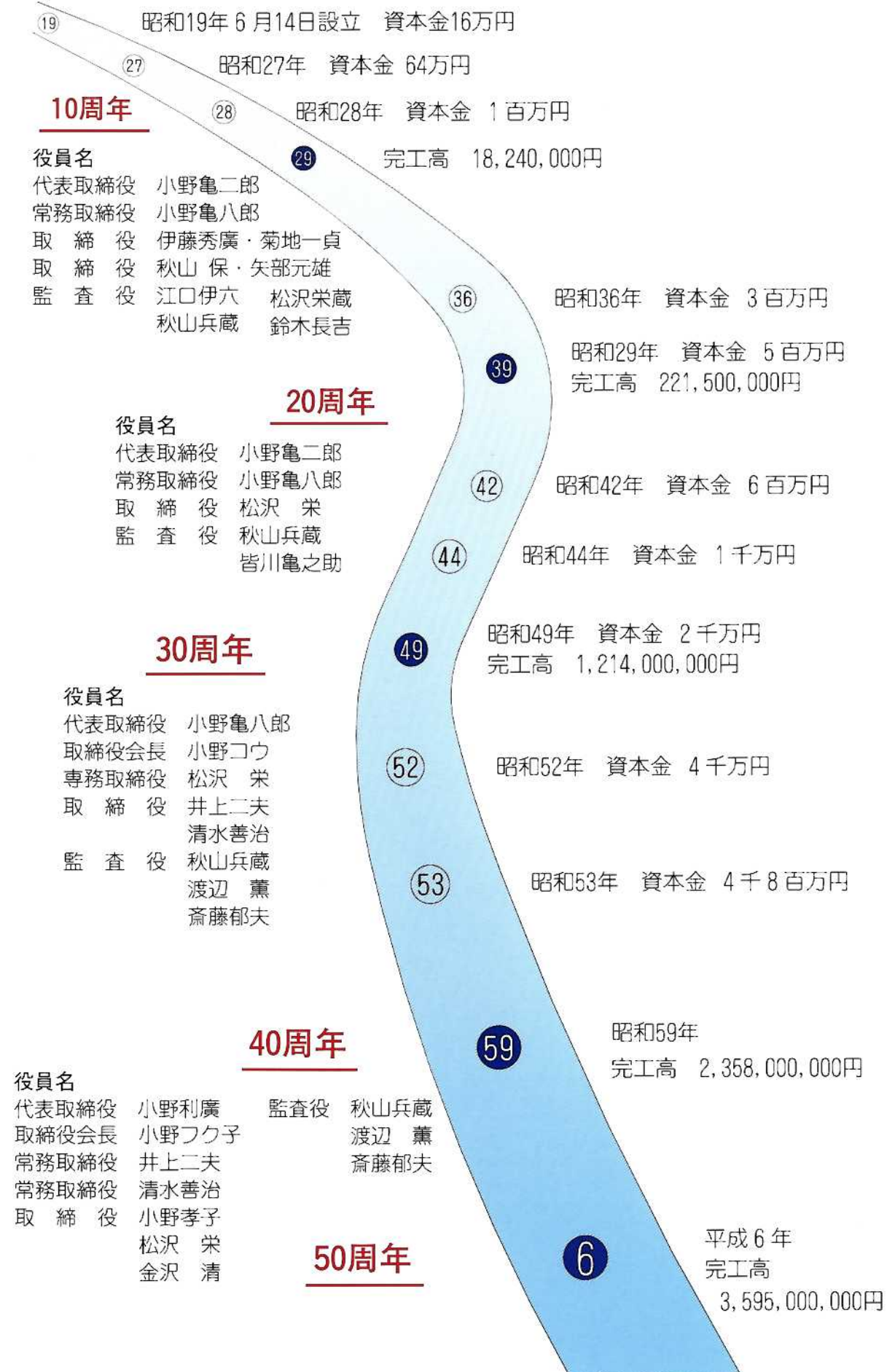


剣桂トンネル



表彰等

昭和29年	全国建設業協会会長より安全表彰受賞
昭和39年	西郷出張所、無災害記録1,400,000時間樹立 6月に労働省労働基準局長賞を受ける
昭和40年	全国安全週間で労働大臣より功績賞受賞
昭和42年	中小企業退職金共済制度加入促進強化月間にて労働大臣表彰受賞
昭和42年	昭和41年度 福島県優良土木建築工事（舗装部門）受賞 （棚倉矢吹線特殊改良第4種工事）
昭和46年、48年	県知事表彰（社会福祉等）
昭和50年	前橋営林局長より表彰受賞（大石沢林道新設工事）
昭和51年	東北地方建設局長より表彰受賞（西郷道路改良工事）
昭和52年	内閣総理大臣より褒状
昭和53年	昭和52年度福島県優良建設工事（住宅部門）受賞 労働大臣表彰受賞、全国建設業協会会長より表彰受賞
昭和54年	昭和43年度福島県優良建設工事（都市計画部門）受賞 （白河棚倉線重要幹線街路工事）
昭和56年	昭和56年度福島県優良建設工事（学校建設部門）受賞 （福島県立白河実業高等学校々舎改築第3期工事）
昭和58年	昭和57年度福島県優良建設工事（道路部門）受賞 （国道289号線、改良工事 高山地区）
昭和59年	社会保険庁長官より表彰（職場の健康管理）
昭和61年	建設大臣表彰（建設雇用改善）



昭和62年	昭和61年度福島県優良建設工事（農道部門）受賞 （白河西部地区広域農道整備事業）
平成2年	前橋営林局長より表彰（木戸入林道新設工事） 白河税務署長より表敬状（優良申告法人、継続）
平成4年	社会保険庁長官より表彰（健康保険および厚生年金保険事業）
平成5年	財団法人 全日本交通安全協会長より表彰（事故防止活動）

創業90周年の記

三代目社長 小野亀八郎

運というのは、誰にでも平等にさずかっておる筈です。ただその運を掴むか見逃すかは、その人の努力もさることながら、日頃の誠実、真摯な生活がもたらすものと思致します。

アメリカ第28代大統領 T. W. ウィルソンは、「運命の中に偶然はない。人間はある運命に出会う前に、自分でそれをつくっているのだ。」と申されております。

また、文豪夏目漱石も小説の中で、「運命は神が考えるものだ。人間は人間らしく働けばそれでよいのだ。」と書かれておられます。正に名言、至言と思われまふ。初代亀二郎がそれに出逢ったのも、その格言の通りと聞き及んでおります。

時の福島県の土建業の大御所であり、福島商議所（現福島商工会議所）会頭、衆議院議員までつとめられた大島要造翁は、あるとき一の子分の千田耕造さんと呼ばれ、「今度の仕事で小野はだいぶ損を出したとか、多分夜逃げをしたと思うがお前見てこい。」と命じられた。

千田さんが小野家の門口に立つと障子が明るく、なかから「たんとんとん、たんとんとん」と音がする。穴からそうっと覗くと、お袋は、藁を叩き、親父は明日履く草鞋を編んでいた。「小野お前夜逃げをしなかったのか」、「夜逃げをしたって借金が無くなる訳ではありません。みんなに話をしたら待ってくださるとのこと、働いて返しますよ。」親父の正直な人間性に打たれた千田さんは、親父と兄弟分の盃を交し、そのままを大島親分に報告したそうです。親父に運がつく、それはその時に始まったようです。このことは福島中学に入学し、千田家に下宿させてもらった現小野組社長、四男坊の義美が追憶記のなかでそう記しております。

初代、小野亀二郎は、明治4年4月15日、大分県宇佐郡津房村松本（現安心院町）において、父奎平、母さをの二男として生まれました。山深い処の貧しい農家です。

明治の始め教育施設とてなく、また受ける余裕とてなく、働ける年頃になるのを待ち兼ねるように奉公に出されたようです。

初代は寡黙な人で、余計なことなど余りしゃべりません。叱る言葉も一言か二言、私なども「男はな、やろうと思ったことはやり通せ。」そう叱られたことは、終生忘れ得ぬ言葉です。そんな具合ですので、くどくどと身の上話など語ることもなく、少年期から青年期まではあまり詳らかではありません。判っていることは16才で故郷を後にし、石工として主に鉄道工事に従事しながら郡山へ、それは多分苦勞の連続であったと推測致します。

西郷隆盛、従道の食事の逸話があります。初代も同じ九州生まれの南州同様、食い物で「まずい」ということは一度もなかった由、それと物は残さない、苦勞の中から生まれた生活態度です。

明治30年同業の大先輩亀山春吉さんのご媒酌により、郡山の酒井リエと結婚、時に亀二郎27才、リエ16才でした。翌年の7月15日に長男利勝誕生、明治34年には次男貢がともに郡山で生まれております。本来ならば三男となるべき男の子が死胎で生まれ、明治36年白河の寺に埋葬されておりますので、明治35年には白河町金屋町に居を構え、本格的に仕事に取り組んだものと思われます。

その年月日を定めるに当たり二代目と相談を致しました。親父がこういう商売をしているなと判ったのは、物心のついた5才頃のこと、それでは二代目の満5才の誕生日、明治36年7月15日とすると決めました。爾来今年で満90年となります。



初代を語るとき、内助の功高きお袋を紹介しなければなりません。

個人経営であったので事務所は自宅、現在の自宅でも玄関脇の1坪半位の処が事務所でした。お袋が常に座る茶の間からは玄関、事務所の双方が良く見えるよ

うになっており、現場の虫で留守がちな父親の留守を守り抜いたのがこのお袋です。小さな体のくせに気丈で、並み居る配下たちはお袋を一目も二目もおいておりました。渡り土工などが来て仁義をきってもビクともしません。それでいて情け深く「オッ力ちゃん」と慕われて、茶の間には人の絶え間がなく、夜になると持ち家の家族が集まり、旦那方は囲碁、奥方達はお茶のみ話と、それはそれは賑やかなものでした。

昭和47年に書いた拙文で紹介いたします。

十八才で長男亀二郎（幼名利勝）を設けてより爾来二十有年、十二人の子を生み続け昭和十七年二月火鉢の前でお茶を飲みながら忽然として此の世を去った母行年六十一才であった。男の八番目総勢中十一番目私です。から二十二才の兵隊さんであつたのだから本当に子を生み育てるだけの一生であつた訳である。尤も現代の様な核家族の形態であつたなれば恐らくはPTA会長小野亀八郎はこの世には存在不可能、それだけでも誠に感謝の極みである。今その母の思い出を迎える時どうしても忘れ得ないものが一つある。それは、あの

母の肌の温くもりである。今の人では考えもつかぬことではあるが、背中の襟を広げて素肌の中に幼な児をぼんと入れる。その肌の温くもりだけは、どうしても忘れることのできないおふくろの味である。そしてその肌の触れ合いの中に肌を通して信心深い母の精神も慈悲の精神もそっくりとは行かぬまでも私の心の中に乗り移つたのではあるまいか。煙草好き等の悪習慣も一緒に。それが本當の教育である。世のお母さん、お父さん、先生方、金や口や本だけでは子供は育てません。肌と心の触れ合いこそ子供を育てる最良の道ではないでしょうか。

おふくろの味



白河第二小学校
P. T. A会長

小野亀八郎

とにかく働きづめの一生であったようです。

それを物語る話として、お袋は「親父は人様の二人前働いたぞ」と子供達に言って聞かせました。

とにかくにも仕事を愛した親父でした。

現場を担当した小野義美に、検査官が「この現場に父親は何回来た」、「はい5回来ました」、「ああそうか、それなら大丈夫だから検査は省略」。

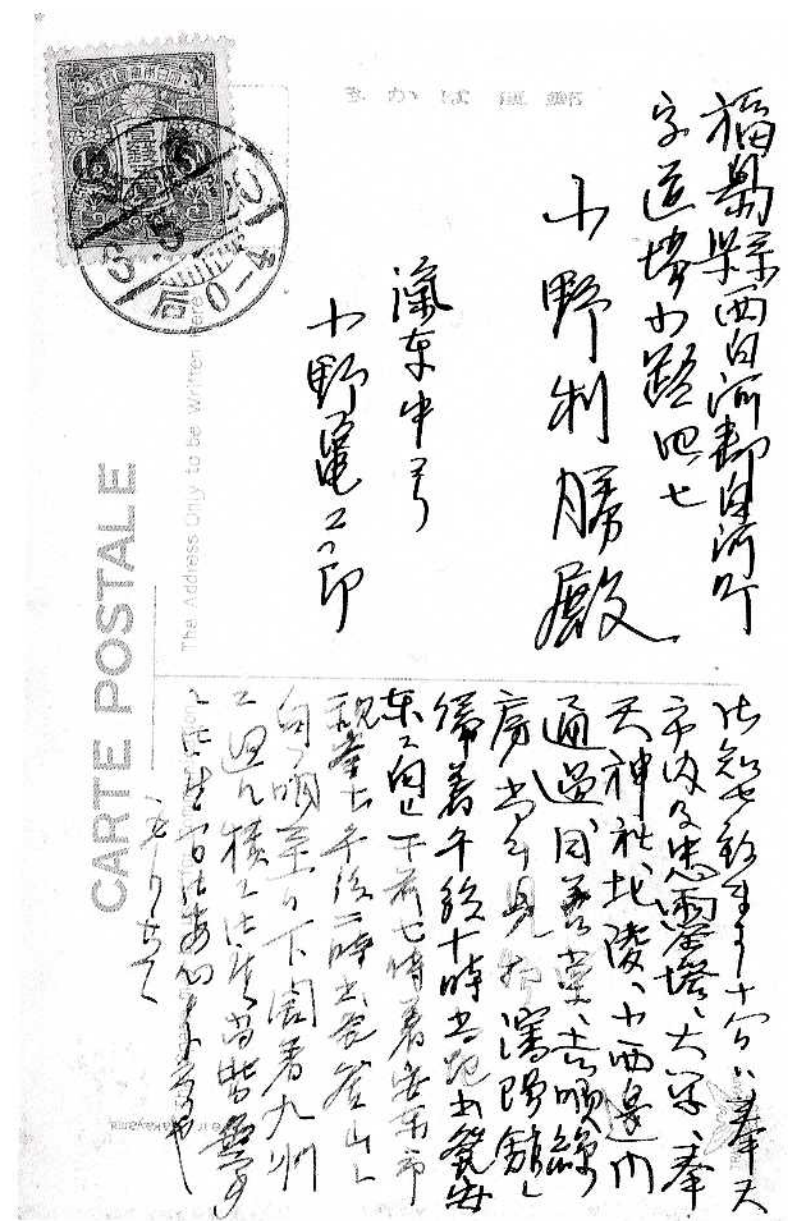
この父親の呼び名が「おとつあん」、お袋のことを「おっかちゃん」。夫婦ともに信心深く「おとつあん」は妙徳寺総代、「おっかちゃん」は婦人講会長をつとめました。そして昭和12年10月13日自宅で眠るが如き大往生を遂げました。行年66歳、人間は棺を蓋って始めて事定まるとか、「おとつあん」の棺は人にまかせるわけにはゆかんと、雨の降りしきるなか白の袴を着た配下達が妙徳寺から火葬場まで担ぎました。忘れ難い思い出であり、親父の偉大さを知りました。



昭和六年満州旅行中

初代より二代目にあてた手紙

小学校も出ておられない父親ですが、こんな手紙を書ける程、独学で勉強致しました。



二代目 小野亀二郎

を紹介する場合、昭和34年9月1日、日本経営者団体連盟発行の「経営人わしが国さ」が一番適切な内容と思いますので、その一文で紹介致します。



福島県 利勝を 改めて 亀二郎 の名を 襲名、 十九年 には家 名の小 野組を 改めて 福島県

世のため人のためだといつて頼まれれば嫌とはいえぬ親分肌の性分で六十才の今日目の回るほどの忙しさ、これが白河経協会長小野亀二郎である。

小野は大正六年安積中学をでて上級の進学を断念し労働の体験を通して人間を作り上げようと決意。家業の建築請負業に飛び込んだ。印半纏一枚が資本。荒くれ人夫の先頭に立って体当りの努力を傾けた。このいきのよい若親分にはさすがの荒武者たちも心服せざるをえない。昭和十二年親父の逝去にあい幼名の

親鸞の教えに
肅然
社会事業に飛び回る
小野亀二郎



南土建工業(株)と改名して取締役社長、今日におよんである。

一口に土建屋といえはクラクラ紋々の荒くれ男を思わせるものだが、小野の場合はちよつと変っていた。彼は力の世界の限界を知っていた。彼は精神の世界、それを培ってゆく信仰の世界に無限の力を求めていった。徴兵検査の折、かつての同級生たちと話合つて金儲けを作つたのもその現われである。この会は心身の鍛練と修養を目的とする極めて厳格な規則をもつた集りで、彼はその会長として忠実にそれを守つていった、若い者にあリ勝ちな危険な火遊びから逃れえたこともその頃の修養の賜。

白河中学の校長波岡茂輝の嘆異抄の講義はとりわけ彼の純情を揺るがした。弥陀の本願によつて救はるる人間世界の醜い、そしてせましい姿をしみじみと感じとつた。悪人も救はる、いわんや善人をや、という親鸞の教えには肅然として心を正す。

三十才そこそこの頃から彼は方面委員の仕事を受けて生活困窮者の面倒をみるやら共済事業に役を買つやら戦争中は遺家族の世話をするなど、もっぱら世のため人のための働きに夢中であつた。皇室や宮家から功労者としての表彰も幾たびならすうけたが、昭和二十二年皇太后から文鎮の御下賜をうけた時などその感激は一入であつたらしい。

今日では本職の土建業は弟の亀八郎にすっかりまかせ切り。もっぱら社会公共の仕事に飛び回つておる。いわく商工会議所会頭、いわく消防協会会長、あるいは建設業協会顧問、防犯協会会長、地裁調停委員、遺族会会長、

著者紹介

会議に政府代表随員として出席並びに欧米留学 昭和廿二年北海道炭礦汽船株式会社取締役 昭和廿二年日本石炭産業連盟常任理事 同年中央労働委員会委員(現在) 昭和廿三年日本経営者団体連盟専務理事(現在) 昭和廿六年日本団体生命保険株式会社取締役 昭和卅三年同社監査役(現在)

(著書) サラリーマン物語 続サラリーマン物語 職業婦人物語 労使共存への途 時局労働読本「新産業道読本」

(現在所) 東京都杉並区関根町二七



前田 (略歴) 昭和廿八年佐賀県生 大正十年東京帝国大学法科卒 同年北海道炭礦汽船株式会社入社 昭和四年第十二回国際労働

基準委員、生活協同組合長、さてはPTA会長等々に至るまで関係する仕事の範囲はまことに多彩なもの。

土建という仕事は物怖や天災等のことから極めて投機性のものであるだけにその苦心も一通りではないが、彼も今にして考えてみれば、白河区にある国立種牡馬所の新設等その苦労のほどが印象的だといつておる。

「愛なき社会は暗黒なり、汗なき社会は墮落なり」を二大誓願とする修養団の精神に一脈相通するものを持つておるようだ。願わくはこれに今一つ「夢なき社会は破滅なり」でも加えて夢を追う青春の若さを何時までも待ち続けながら白河の魂となつてもらいたいものだ。

(三三二八二八)

小野本家二代、三代

(下記の写真は親子4人で写った数少ないものなので紹介します)



亀二郎

福島県南土建工業株式会社

初代社長(昭19~昭41)

(妻) コウ

同社初代会長(昭41~昭50)

(長女) 孝子

初代取締役社主(昭50~昭61)

(養子) 淳文

現取締役会長(4代目)

(淳文の吉野熊野国立公園勤務時代)

(以下の文は昭和63年4月3日、先代の23回の祥月命日の法要の際皆様にお配りした先代を偲ぶ文ですので、ご紹介します。)

おどつあん、おっかちゃん、あんちゃん、ねえちゃん、これはどうも小野家独特の呼び名のようです。私は先代亀二郎が利勝の時代、義姉コウと結ばれてから出来た末弟である。戸籍を見ると7男、なんで亀八郎などと呼ばれたのか、多分亀の子がそろそろと11人目多いことを八百八町とか八百屋とか、もう沢山ですの意味なのかな。やっと止子になった妹が八重子となれば疑うのもむべなき事でしょう。いつであったかあんちゃんに聞きました。いや1人死んで生まれた子がいるので、

やっぱり8男との事でした。大分後のことですが、過去帳を調べたらありました。釈香了童子、明治36年2月30日没と。さあ困った。2月30日命日がない。図書館とは便利なもの、その年は旧暦で30日があったそうです。太陽歴で申せば3月28日との事、多分勝利、貢に次いで3番目の男の子であったようです。

兄夫婦にはなかなか子宝が授からない、そんな事で私はまるで子供のように育てられました。膝の上にだっこすると良く頭をなでながら「これは良い頭だ、格好も良いから頭は良いぞ」そんな言葉を今でも覚えております。多分そう念じたに違いない。「念ずれば花開く」しかし念力が通じなくて申し訳なかったというより、もう一寸努力すればなと後悔を致しております。

「おい八郎、今度姉ちゃんに子供が生まれるんだから、お前姉ちゃんに面倒をかけなよ。」うれしそうに語ったあんちゃんの顔がいまだに忘れられません。

そして昭和9年待望の初子、女の子であったので孝子、そして昭和12年にはそれ



二代目亀二郎・コウ

こそ待に待った男の子、小野家最良の年でした。名前を何とするかなと問われた私、咄嗟に「亀一郎」では、それがしかも満場一致で決定致しました。

好事魔多しとか昭和12年には初代亀二郎が他界し、そしてなんという事だろう、あんなに丈夫で、豆タンクと仇名をつけた大事な跡取りが亡くなるとは、それは昭和14年の春でした。可愛くて可愛くてたまらなかった亀一郎の死、4月10日入学したばかりの三重高農から取って返して葬儀に参列しました。私は叔父さんであるのに、皆は八郎あんちゃん、それこそまた兄弟のように育った間柄です。兄貴はやっぱり偉い。弔問に訪れた方々に、今まで楽しませていただきましたと答えたそうである。並の人間ではとてもとてもできるものではないと思います。

昭和16年6月には次女和子が誕生、そしてその年の暮の多分12月26日だったと記憶しますが、第1回の繰上げ卒業で私が卒業致しました。次兄貢の次女の恭子さんが女子高生で孝子の手を引き、姉ちゃんは和子をおぶって三重県津まで出掛けてきて卒業式に参列してくれました。実の親子でもなかなか出来ないことであり、感謝を致しております。

戦後は孝ちゃんは小学生、和子さんはまだ小さい、田んぼもつくらなければ、或は農地解放、財産税、たく炭もない、お前少し手伝えや、そんな具合ですると本家に居候、そして孝ちゃんには淳ちゃんという良きご縁は得たものの、勤めは環境庁で、吉野だの、北海道だの、そしてなかなか孫も出来ないの、いまさらあんちゃんとも呼べず、私の子供達には爺ちゃん婆ちゃんと呼ばせることに致しました。

昭和41年爺ちゃんは、本当の孫を見ることなく、亡くなりました。しかし私の子供達の大半が卒業するまで、第二小学校のPTA会長を勤めるなど、他人から見れば本当の孫の様であったようです。会社のほうは先代二代そして三代の亀が続き、四代目は淳文孝子の養子にした利廣が継承する。そして二代目亀二郎を本当に爺ちゃんと呼べる立場になる。どんな不思議な御縁の糸に手繰られているものやら、お釈迦様でもご存じないと思います。

「俺は絶対に入院しないぞ」それは終焉の床に就いた時の先代の申し渡しです。主治医に相談すると、「この病状では入院してもね。私が毎日来るから、そうしたら。」そして最後の息を自宅で引き取りました。

お見舞いにお出でになる方が口々に「なぜ入院させないのですか」。病状を隠しながら苦しいお答えを致しました。

葬儀は当時の市長木ノ戸徳重さんが委員長となり、消防葬を市民会館で執り行い、それはそれは盛大なものでした。

初代会長の義姉は病む以前から「私は爺ちゃん（夫）と一緒に葬儀を了したつもりです。

私のときは密葬にしてください。」

心ならずも遺言を守り質素な葬儀を取り行いました。

他人から見れば兄弟不幸のように見られたかも知れません。

死に装束を知らぬ間に箆笥に納めて旅立った明治の人。

おそらくお二人とも世間の眼とは別に、ご満足のなかにお浄土に旅立たれたものと安心をいたしております。合掌

二代目の血を伝える二女和子夫婦（夫 青木正雄）と長女勅子次女純子と亀八郎夫婦（平成6年）



社長三代目を継ぎました

少々古い話ですが、20年程前に（社）福島県建設業協会々報「福建」に社長の定年退職論をぶちました。

当時私の会社の職員定年は60才、社員だけを辞めさせて「俺はまだ大丈夫だ」と社長が居残るようでは、その会社は発展しない、社長も後進に道を譲るべきだと。

その理由としては、昔から言われた「日進月歩」が「秒進分歩」に変わった時代であり、古い経験だけを持ちまゑにしておる社長など、時代にとり残され、ひいては会社もそうなりますよが持論でした。

色々な反響があり、「御自身は辞められるのかな」の危ぶむ声、然し結果として59才7ヶ月で社長を辞めました。それは白河市長立候補の声明をする2月であり、立候補をする以上両天秤は掛けるべきではない。

1人1役、これが私の持論です。

お陰様で4月の選挙で当選し市長に就任致しました。

もう1つ変わったことをやりました。

会社は社員持株制度を採っており、全社員が株主です。

勿論古い株主様も、お出掛けいただき次期社長を定める株主総会、私は次期社長は推薦しませんでした。

その理由は「これから皆さん方と苦楽をともにし、然も会社の命運を担う社長は誰が適任なのか、皆さん方できめて下さい。」

これまた私の持論です。

4代目社長に当時はまだ32歳であった、息子の小野利廣就任。

「良かろうと悪かろうと皆さんの責任です。一緒に歩んで下さい。」

これが提唱しておる大家族主義の経営、その思いも達することが出来ました。

新社長誕生と同時に取締役会長に就任致しましたが、1年限りで辞任し相談役に退きました。

その理由は市長職が余りに多忙であること、もう1つは市の発注工事は会社を指名しませんが、近隣町村とは受注関係にあり市長職に支障があるやも、そんな理由です。

会長辞任に伴い、三代目会長に小野フク子が就任致しました。

昭和62年1月初旬、子もたずの小野本家三代目淳文、孝子夫婦より、跡取りとして、社長の利廣を養子にとの話がありました。

相談の結果、全員了承したので、当時病床にあった孝子の誕生日のプレゼントに贈りました。1月28日の夜です。

安心をしたのでしょう翌月5日に息を引き取りました。(行年53歳)

平成元年には市長職も失い、名実ともに親もなし職もなしの穴無斎に近くなりました。

平成3年には小野本家三代目、淳文君が公務員を退職したので取締役会長に、それに伴い、小野フク子は相談役に、私は顧問役に退き、会社の重要役職をすべて本家に返し、ワンポイントリリースの役目を無事果たしました。

ありがとう御座居ました。お世話になりました。

昭和55年深夏に、92歳になった義父、藤田勝次より自筆の色紙を頂戴しました。

「朝は希望に起き、昼は報恩に働き、夜は感謝に臥す。」

最初の方の語呂が悪いので「朝は希望に目覚め」とし社是としました。

私の功績らしいのはこれと社屋移転位と考えております。

普通は半生記と書きますが、この場合は恐らく終生記となるでしょう。

男の7番目となると生家では無用の長物、丈夫な体を頂戴したので志望は軍人。

ところが旧制中学1年の身体検査で色弱、軍人の道は駄目とのこと、従って勉強も止め柔道一筋、講道館6段で熊と相撲をとる程に上達しました。

親は自分たちが出来なかった学問、兄弟全部旧制中学に進ませてくれました。お前位はと、上級進学を期待された私も色弱では工科系は全部駄目、三重高農からの返事は林学科なれば成績優秀なれば可とか、17倍の倍率に挑戦、苦手の英語がないので辛うじて入学できました。

在学中の兵隊検査で色弱なのに、何と甲種合格、第1回の繰上げ卒業の翌年の昭和17年2月1日には新潟県高田の独立山砲第一連隊に、6月甲種幹部候補生で豊橋第一陸軍予備士官学校入校、11月には同校卒業、原隊復帰。

幼少から志した道であり性に合っていたのでしょう、成績は良好でした。

18年に少尉に任官、19年に中尉に、20年にはポツタムながら大尉に、結局中学から士官学校に進んだ者と同じ階級、三重の同級生では皆無、最後は母校の教官などをつとめました。

今迄の人生の中でこれだけは自慢出来る一駒です。

国破れて故郷に帰ると、「そのうち就職を世話するから、しばらくは家を手伝え。」然しそれが自分の一生の仕事になるなど夢想もしませんでした。

数多い兄弟のうち、親父の亀を貰ったのは私だけ、小野亀さんの屋号を継承する運命はすでにその時に生じていたのでは、不可思議です。

前述の通り、親父は人様の2倍の働きとか、さすれば66歳の生涯ではあっても132年は生きたことになります。

兄貴は60歳の頃、俺は5人前位の仕事をしたから300年位生きたことになる、いつ死んでも悔いはないと67歳で亡くなりました。

私自身も白河建設工業協同組合を始め、4つ程の企業をおこして優良企業に育てあげ、兄貴の通った道もほぼ踏襲はしましたが、如何にせん賢兄愚弟、半分としても73×2.5年≒182歳、まあまあ満足です。

恐らくは10年後の100周年は望むべくもないので、創業90周年の記の拙文をまとめさせていただきました。御了承下さい。